

# 自己評価項目一覧 —教職員編— 平成 26 年度

岩見沢聖十字 幼稚園

正規教員 4 名  
補助教員 7 名

氏 名 ( )

A	おおむね良い
B	ふつう
C	あまりできていないので、一部検討を要する

評価分類		内 容	A	B	C	
I 保育の 計画性	1	園の教育理念・教育目標の理解	① キリスト教保育を基盤とした園の教育理念や教育目標を理解し共感している	9	2	0
			② 園の教育理念に基づいて教育目標について園長や主任・教職員と話し合い、保護者に説明できる	9	2	0
	2	幼稚園教育要領の理解	① 幼稚園教育要領を読み、園長や主任・教職員と話し合って理解に努めている	5	6	0
	3	教育課程の編成	① 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している	9	1	0
			② 園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てている	6	4	0
	4	指導計画の作成	① 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成している	7	3	0
			② 指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものになっている	7	3	0
	5	環境の構成	① 安全で清潔感のある環境構成をしている	11	0	0
			② 幼児が主体的に豊かにかかわることができる環境構成をしている	10	1	0
			③ 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意している	7	4	0
			④ 園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成に生かすようにしている	6	5	0
			⑤ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	8	3	0
	6	評価・反省	① 自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行っている	8	3	0
			② 自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かせるようにしている	8	2	1
II 保育の在り方、幼児への対応	1	健康と安全への配慮	① 朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確かめている	10	1	0
			② けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行っている	9	1	0
			③ 園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方をしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考えるようにしている	10	1	0
			④ 園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配っている	10	1	0
	2	幼児理解	① 一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配るようにしている	10	1	0
			② 幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめるようにしている	10	1	0

			③ 個々の幼児の発達の様や課題について、見通しをもって理解できるようにしている	10	1	0		
			④ 幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解できるようにしている	10	1	0		
			⑤ 幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知るようにしている	9	2	0		
			⑥ 幼児の理解のために家庭との連携をとるようにしている	9	2	0		
			⑦ 幼児の姿を多面的に捉えるように心がけるようにしている	10	0	0		
			3	指導とかかわり	① 幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動するようにしている	10	1	0
					② 幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使うようにしている	9	2	0
	③ 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている	10			1	0		
	④ キリスト教保育を行う中で、善悪の判断、思いやりの心を培ううえでのモデルとなるように心がけている	8			3	0		
	⑤ 幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がけている	11			0	0		
	⑥ 幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにしている	10			1	0		
	⑦ 幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がけている	10			1	0		
	⑧ 幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫している	9			2	0		
	⑨ 幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をしている	9			2	0		
	⑩ 幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がけている	9			2	0		
	⑪ 幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしないようにしている	11			0	0		
	4	保育者の協力・連携	① クラスに関係なく、その場にいた保育者に適切な言葉がけや対応をするように心がけている	11	0	0		
			② クラスの環境構成などについて保護者に理解してもらえるよう努めている	8	3	0		
			③ 幼児のことについて保育者同士で話し合う場を設け、共通理解をするように心がけている	8	3	0		
			④ 保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努めている	9	1	1		
			⑤ 保護者が他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫、保育の形態を取り入れている	6	4	0		
Ⅲ 保育者としての資質	1	専門家としての能力・姿勢・義務	① 保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がけている	9	2	0		
			② 幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにしている	11	0	0		
			③ 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている	11		0		
			④ 服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている	9	2	0		
			⑤ 職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守るように心がけている	11	0	0		
			⑥ 園の重要書類は持ち出さないようにしている	11	0	0		
			⑦ 締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守るようにしている	10	0	1		

	2	組織の一員としての在り方	① 教職員全員で一つのチームであることを自覚するように心がけている	10	1	0	
			② 他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努めている	8	3	0	
			③ 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や他の教諭に報告、連絡、相談をしている	10	1	0	
			④ 当番や役割による仕事は確実にこなしている	10	1	0	
			⑤ 園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さないように心がけている	11	0	0	
	3	保育の楽しみ・喜び	① 幼児の成長を自分の喜びと感ずることができる	11	0	0	
			② 幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感ずることができる	11	0	0	
IV 保護者への対応	1	情報の発信と受信	① 保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をしている	7	4	0	
			① 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がけている	10	1	0	
	2	守秘義務の遵守	① 保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従っている	11	0	0	
			② 個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しないようにしている	11	0	0	
	3	対応上のマナー・心がまえ	① 日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにしている	8	3	0	
			② 電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がけている	9	2	0	
			③ 保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応している	8	3	0	
	4	クレームへの対処の仕方	① 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をしている	10	1	0	
			② クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処している	8	3	0	
	V 地域の自然や社会とのかかわり	1	地域の自然・人々とのかかわり	① 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がけている	10	1	0
				② 地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努めている	7	3	1
				③ 地域の自然や機関について、利用しやすい工夫をしている	6	4	1
2		小学校との連携	① 小学校の教育内容について理解するよう努めている	5	5	1	
			② 地域の小学校の行事や公開授業に関心を持っている	4	6	1	
3		子育ての支援と地域への開放	① 子育ての支援や地域開放について具体的な形や内容を理解するよう努めている	8	3	0	
	② 子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合っている		7	4	0		
VI 研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	① 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	7	4	0	
			② 自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行っている	9	2	0	
			③ 自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談している	7	4	0	
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	① 幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行っている	6	5	0	
			② 記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行っている	4	6	1	
			③ 教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行っている	3	7	0	

3		④ 保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行なっている	4	6	0
		⑤ 幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行なっている	4	6	0
		⑥ 保護者への対応に関する研修・研究を行なっている	4	6	1
		⑦ 地域社会との交流に関する研修・研究を行なっている	4	5	2
		⑧ 保育者同士の協力・連携に関する研修・研究を行なっている	4	7	0
	今日的課題に関する研修・研究	① アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解している	7	4	0
		② 障がいのある幼児の理解と対応について研修している	8	3	0
		③ 預かり保育や子育ての支援について研修している	6	4	1
		④ 幼小連携の必要性や具体的方策について研修している	3	7	0
		⑤ 危機管理の必要性と対応について研修している	4	6	1

#### I 保育の計画性

- ・保育の計画をたてる際、職員同士ではよく話し合っているが、教育要領の理解が足りないと思うので、きちんと教育要領を読むようにしたい。
- ・その日の天候や子ども達の様子を見て、活動を臨機応変に変えて、自然を多く取り入れた保育ができていますので、いいと思う。
- ・遊具が古くなり、壊れて減っているものもあるので、新しく購入して欲しい。
- ・園庭に日陰が少ないので、対策を考えたい。
- ・やりたいことが全体的に多すぎて、日々の保育が気忙しいものになっているときがあるので、もう少し内容を絞ってゆとりのある保育をしていけたらいいと思う。外遊び、自然の中で過ごすことは大切にしたい。
- ・計画通りにいかなかった部分も多くあったので、事前準備をもう少し念入りに行いたい。
- ・もっと一年の活動を理解して計画したほうが良いのでは？行事のために、となることがあるし、調理保育もやっているだけ、という印象がある。3年保育なら3年を見通して継続した保育をするべき。(担任が一年で変わるのでそこでリセットされてしまっている。)
- ・各々の保育者の保育の考え方などあってよいと思うが、横クラス(同年齢)クラスの到達度や経験などは同じようになるよう意見交換をしたりしていく方が良いと思う。担任交換やオープン保育などしてみても高められると思う。
- ・早めに計画を立て、準備するようにしています。
- ・年少、年中、年長さんそれぞれの年代に合わせた無理のない保育を心がけ、担任の先生を補助しつつ協力していきたいと思います。
- ・補助職員は主に担当の先生が立てた案を補助することが多いので、保育の前にどのような補助をするべきかイメージを持って臨みたい。様々なアクシデントがあるため、時には急を要する場面もあるが、できる限りどのようにどこまで、というイメージを事前にいただけたら、さらにやりやすいと思う。
- ・バスの中で安全に落ち着いて過ごせるように紙芝居を読んだり、クイズをしたり、楽しく過ごせるようにしている。
- ・年齢に見合った計画を立てるため、発達についてもう一度学習する必要があると感じられる。

#### II 保育の在り方、幼児への対応

- ・遊具の使い方が乱暴な場合、正しい使い方を指導しているが、家庭ではどのような使い方をしているのか知りたい。そのうえで、園と家庭と両方で指導できると良いと思う。
- ・バス通園以外の子ども達の登えん時間がばらばらで、なかなか担任が自由遊びに参加できないので、保護者の方の協力を得て、必ず9時までに登園するようにして欲しい。
- ・朝の遊び時間に子どもを見る先生が同じになりがちなので、朝の受け入れをクラス担任と交代する時もあったりと、交代を柔軟に行えるようになるといい。
- ・年長組なので、厳しくかかわってしまったことも多かった。もっと子供たちの話を聞

き、トラブル等を解決していきたい。

・上にも書いたが、調理保育について、食育ということで行っているはずなのに、ねらいや何を感じてもらいたいかなどしっかりと考察されてないのでは？しっかりと取り組んだ方が良い。

・遊びの充実、自由遊びのコーナー活用や、保育者、子ども共に時間の把握、片付けの徹底などもっとつながりの持ったやり方を考えていけたらいい。

・担任と連携を取り、幼児へ理解を深め、その子に合った対応ができるように心がけていきたい。

・子ども達との関係で保育者であり方一緒に遊ぶときは友達のように、不安を感じ涙してしまうときは母のように子ども達に接し、関わっていききたいです。

・質の高い保育を目指して、話し合い、一つ一つの活動はとても意義のあるものだと思っているし、担当の先生の役に立ちたいと思っているが、保育内容が盛りだくさんで次々に切り替えをしなければならないことが多いように感じる。そのため、活動一つ一つの終わりが雑になってしまうことが少し残念であると感じる。もう少し、職員も体と心に余裕を持てる保育を心がけたい。

・登園時、バスに乗る際、体調に気をつけて見ていたが、嘔吐してしまう子が何人かいた。その際、処理セットが揃っていない、足りなくなることがあった。汚物処理セットをしっかりと用意しておくべきだったと反省し、バケツの中に雑巾、ビニール袋、ビニール手袋、ペーパータオル等を用意し、定期的を確認するようにしたいと思う。

・幼児の発達を再度見直し、研究を怠らない。幼児の考えを尊重する。

### Ⅲ保育者としての資質と能力

・新しいことを考え、保育で実践していきたい。

・ディスカッションする場が少ないし、それに消極的な人もいるので、そこができればより良い環境になるのでは。

・遊びの充実、自由遊びのコーナー活用や保育者、子ども共に時間の把握、片付けの徹底などもっとつながりを持ったやり方を考えていけたら、と思う。

・中堅保育者が多いので、皆で高め合って刺激し合い、行事、時間に負けない保育ができるようにしていきたい。

・家庭の事情で、研修会などになかなか参加できていないので、今後は少しずつ参加していきたいです。

・保育者としてはまだまだ未熟な点が多いと思いますが、他の先生たちからの助言やアドバイスをいただき子ども達にとってより良い幼稚園生活を過ごせるように頑張りたいです。

・一人一人の個性を大切にしつつ、集団生活できることを大きなテーマとして日々従事している。が、運動面では自分の体が動きづらい年代を迎え、運動遊びで子ども達と共感する機会は減っている。その点では能力低下を感じている。

・先生方と話す機会が多くないので、前日の反省ノートを見て確認したり、質問している。

・クラスのお便りを見せてもらうなどして、予定や準備する物を確認できるとよいのかと思うことがあった。

・バスの中の様子を報告できるときはしている。

・挨拶や名前を大きな声で言えるようになったと、子どもと一緒に喜びを共感している。

・知識、経験共に不足しているので、学びを深め、力をつけていきたい。

### Ⅳ保護者への対応

・保護者の方から相談があった場合は、しっかりと話し合う時間を設けたりして対応ができた。しかし、保護者の方からあまり発信がなかったり、会う機会が少ない場合、様子を伝えることが少なかったように思う。春の懇談会は希望者だけなので、全員を対象に行った方が良いのかなと思う。(新入園児は4月の早い段階、進級児は少し様子を見て6月くらいが良いか)

・保護者の方に今の保育の状況、困っていること、協力してほしいこと、知っておいてほしい考えや思いをもっと発信して共に同じ方向を向いて子どもを育て、支えていきたい。

・伝え方が難しいと感じた。今後保護者が一緒に頑張っていこうと思えるような言葉がけをしていきたい。

・働いている方が多いので、もっとお便りポストを活用したり、様子を伝えたほうが良い。

・年少→年中→年長と各々変化し、成長し、心の変化も多く見られる時期なので見過ごし

てしまうことなく親と連携して話をよくしていくことが大事だと思う。

- ・保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫はしていますが、もっと専門的なことを勉強する必要があると感じています。(たとえば障害のある幼児について)
- ・保護者の方とのコミュニケーションを大切に、進んで挨拶やお子さんのお話等していきたいと思います。
- ・補助職員は保護者の方とお話しする場面は少ないが、そういった機会があれば園での様子などお伝えしている。行事の質問などについては職員の先生に確認しつつ答えていることが多い。
- ・担任等から連絡やけがの報告を聞いて、保護者に伝えているが、それ以上のことを保護者に聞かれ困ることもある。後で担任から電話をかけ、話はしていると思うが私自身がうまく伝えられているのか、けがをした時の状況が見えず、難しいと思うことがある。
- ・電話を受けたり、かけたりすることが多いので、わかりやすくはっきり話すように心がけている。
- ・保護者の立場に立って考えられるように努める。
- ・積極的にかかわり、保護者から意見を伝えやすい保育者になっていきたい。

#### V 地域の自然や社会とのかかわり

- ・同じ町内にある「自然休養林」を保育の中でも利用し、子ども達と虫や花、鳥などについて学んでいます。その中で、わからない事や疑問に思ったことは「自然休養林」の施設にいらっしゃる館長さんにお話をしています。
- ・玄関には虫の図鑑や本があり、見つけた虫をすぐ調べられるのはよいと思う。
- ・地域のゴミ拾いなどを通して、ご近所の方に出会った時には積極的にあいさつするようにはしています。
- ・地域にある大学生に、幼稚園で活動してもらい、お互いの学びとなる活動が出来たことはとても良かったと思う。
- ・教会の方が、毎週の礼拝や誕生会などがかかわることが出来ましたが、他の行事の中でも教会とのつながりを多く持てるようになると思います。
- ・地域、小学校、発達支援事業所との連携を強める努力を今年度はしてきました。連携機関も増えてきましたので、今後もつながりを強め、子ども達一人ひとりのために支援を続けます。
- ・3学期には、4月から入学予定の小学校で体験学習をすることができました。子ども達にとっては基調な体験となるので今後も続けていきたいです。
- ・茶道、詩吟、リズムなど地域の方に来ていただき、活動している。このように日々の保育の中でも地域の皆さんに見守られて、育つ環境ができています。

#### VI 研修と研究

- ・聖公会で新たに立ち上げた研修会に参加し、子供の発達、成長についてよく学ぶことが出来た。今後は保育に生かすことのできる実践的な研修会にも参加するようにしたい。今年度はわらべうたの研修会に2回参加し、子ども達と楽しむことが出来てよかった。
- ・それぞれ学んできた研修の内容を他の保育者にしっかり伝える時間を取れたらよい。
- ・今年度は「発達支援」の研修会にいくつか参加させていただきました。個人的だけでなく、園全体としてみんなで学ぶ機会もあり、職員みんなで同じ方向を向いて保育することが出来たことが、今年度とても良かったので今後も続けていきたいです。
- ・個人としても、研修会で学んだことを保育に活かす機会がありました。特に保護者との関係についてはとても参考になりことが多かったので、今後も様々な研修会に参加し視野を広げていきたいと思います。
- ・それぞれが研修した事を、職員間で発表する機会がないので、今後は更にいろんな研修会での報告会などを行い、子ども達ために職員が協力して保育を行っていききたいと思います。
- ・